

1 月別気象概況（平成23年1月～12月）

福岡管区气象台

(1) 1月の気象概況

1月上旬：冬型の気圧配置による寒気の影響で曇りや雨の日が多い。低温。

冬型の気圧配置による寒気の影響で曇りや雨の日が多くみぞれの降った日もあった。4日は強い寒気の影響で0.0～45.0mmの降水量を観測した。

気温は期間を通して概ね平年を下回り、旬では県内各地で平年を下回った。降水量は県内各地で概ね平年を上回り、日照時間は県内各地で平年を下回った。県内各地の旬平均気温は1.2～4.6℃（平年差-3.7～-1.9℃）で低くなった。旬降水量は5.5～137.5mm（平年比28～477%）で多い所が多くなり、旬日照時間は平年比46～85%で概ね少なくなった。

1月中旬：冬型の気圧配置による寒気の影響で曇りや雨の日が多く期間の前半は雪の降る日があった。低温。

16日に添田で「日最低気温の低い方から」の記録を更新。

冬型の気圧配置による寒気の影響で曇りや雨の日が多く、期間の前半は雪の降る日があった。16日に添田で-5.8℃の最低気温を観測し「日最低気温の低い方から」の記録を更新した。

気温は、期間を通して平年を下回った。降水量は平年を下回った所が多くなり、日照時間は概ね平年並だった。県内各地の旬平均気温は0.2～3.3℃（平年差-3.7～-2.2℃）でかなり低かった。旬降水量は1.5～15.0mm（平年比6～33%）で概ね少なくなり、旬日照時間は平年比67～132%で平年並の所が多くなった。

1月下旬：冬型の気圧配置による寒気の影響で曇りの日が多く雪やみぞれの降る日があった。

低温。少雨。

飯塚、前原、添田、朝倉、黒木、大牟田で1月の「月平均気温の低い方から」の記録を更新。

英彦山、大牟田で1月の「月降水量の少ない方から」の記録を更新。

冬型の気圧配置による寒気の影響で曇りの日が多く、雪やみぞれの降る日があった。また、飯塚で2.1℃、前原で3.3℃、添田で1.5℃、朝倉で1.3℃、黒木で0.5℃、大牟田で2.4℃の月平均気温を観測し、1月の「月平均気温の低い方から」の記録を更新した。英彦山で48.0mm、大牟田で7.5mmの月降水量を観測し、1月の「月降水量の少ない方から」の記録を更新した。

気温は期間を通して平年を下回り、旬では県内各地で平年を下回った。降水量は県内各地で平年を下回り、日照時間は県内各地で概ね平年を上回った。県内各地の旬平均気温は0.2～3.5℃（平年差-3.2～-2.2℃）でかなり低くなった。旬降水量は0.0～10.5mm（平年比0～41%）で少なくなり、旬日照時間は平年比100～128%で概ね多くなった。

(2) 2月の気象概況

2月上旬：高気圧に覆われて晴れの日が多かったが期間の終わりは気圧の谷や低気圧の影響で雨の降る日もあった。

高気圧に覆われて晴れの日が多かったが、期間の終わりは気圧の谷や低気圧の影響で雨の降る日もあった。

気温は期間のはじめと終わりに平年を下回った日もあったが、その他の日は概ね平年を上回り、旬では県内各地で平年を上回った。降水量は県内各地で平年を下回り、日照時間は県内各地で概ね平年を上回った。県内各地の旬平均気温は4.4～7.2℃（平年差+0.2～+1.3℃）で平年並の所が多かった。旬降水量は3.0～13.0mm（平年比22～56%）で平年並か少なくなり、旬日照時間は平年比95～143%で概ね多くなった。

2月中旬：低気圧や寒気の影響を受けやすく雨や曇りの日が多かった。寡照。

旬の中頃と終わりには高気圧に覆われて晴れる日もあったが、低気圧や寒気の影響を受け雨や曇りの日が多くなった。

気温は、旬の中頃は平年を上回る日があったが、期間のはじめと終わりに平年を下回る日が多く、旬では県内各地で平年を下回った。降水量は県内各地で概ね平年を上回り、日照時間は県内各地で平年を下回った。県内各地の旬平均気温は4.0～6.5℃（平年差-1.5～-0.4℃）で平年並か低くなった。旬降水量は22.5～68.5mm（平年比69～175%）で多い所が多く、旬日照時間は平年比56～74%で少なくなった。

2月下旬：期間の中頃までは高気圧に覆われて晴れの日が多く終わりは低気圧の影響で曇りや雨の日が多かった。高温。多照。

期間の中頃までは高気圧に覆われて晴れの日が多く、終わりは低気圧の影響で曇りや雨の日が多かった。

気温は、期間を通して平年を上回り、旬では県内各地で平年を上回った。降水量は県内各地で平年を下回り、日照時間は県内各地で平年を上回った。県内各地の旬平均気温は8.5～11.9℃（平年差+2.9～+5.4℃）で高くなった。旬降水量は6.0～31.0mm（平年比29～80%）で概ね少なくなり、旬日照時間は平年比127～150%で多くなった。

(3) 3月の気象概況

**3月上旬：高気圧に覆われて晴れの日が多くなったが低気圧や寒気の影響で曇りや雨の日もあった。
低温。多照。**

高気圧に覆われて晴れの日が多くなったが、期間のはじめと中頃には低気圧や寒気の影響で曇りや雨の日もあった。

気温は、期間のはじめに平年を上回った日もあったが概ね平年を下回り、旬では県内各地で平年を下回った。降水量は県内各地で平年を下回り、日照時間は県内各地で平年を上回った。県内各地の旬平均気温は4.1～7.3℃（平年差-2.8～-1.0℃）で低くなった。旬降水量は19.0～46.5mm（平年比48～91％）で概ね平年並となり、旬日照時間は平年比106～135％で多くなった。

3月中旬：天気は周期的に変化した。

期間を通して低気圧と移動性の高気圧が交互に九州を通過し、天気は周期的に変化した。20日は対馬海峡を東進する前線を伴った低気圧の影響で、11.0～36.0mmの日降水量を観測した。

気温は、期間の前半は平年を上回った日が多く、後半は下回った日が多くなり、旬では県内各地で平年を下回った所が多くなった。降水量は県内各地で平年を下回り、日照時間は県内各地で平年を上回った。県内各地の旬平均気温は7.7～10.4℃（平年差-0.9～+0.3℃）で概ね平年並となった。旬降水量は13.5～39.5mm（平年比28～80％）で概ね少なくなり、旬日照時間は平年比110～138％で概ね多くなった。

3月下旬：期間の前半は天気は周期的に変化し後半は晴れの日が多い。低温。少雨。多照。

22日に福岡でソメイヨシノの開花。

黒木で「月平均気温の低い方から」の3月の極値を更新。

行橋、黒木で、「月降水量の少ない方から」の3月の極値を更新。

大牟田で、「月間日照時間の多い方から」の3月の極値を更新。

期間の前半は低気圧と移動性の高気圧が交互に九州を通過し、天気は周期的に変化した。後半は移動性の高気圧に覆われることが多く晴れの日が多くなった。21日は九州の南岸にある前線や低気圧の影響で、県内各地で3.0～16.5mmの日降水量を観測した。また、22日に福岡でソメイヨシノの開花（平年より4日早く、昨年より8日遅い）を観測した。黒木で6.0℃の月平均気温を観測し3月の「月平均気温の低い方から」の極値を更新、行橋で55.5mm、黒木で55.5mmの月降水量を観測し3月の「月降水量の少ない方から」の極値を更新、大牟田で222.0時間の月間日照時間を観測し3月の「月間日照時間の多い方から」の極値を更新した。

気温は、期間のはじめとおわりに平年を上回った日もあったが、概ね平年を下回り、旬では県内各地で平年を下回った。降水量は県内各地で平年を下回り、日照時間は県内各地で平年を上回った。県内各地の旬平均気温は6.2～8.9℃（平年差-3.9～-2.0℃）でかなり低くなった。旬降水量は7.0～30.5mm（平年比12～45％）で概ねかなり少なくなり、旬日照時間は平年比149～181％で概ねかなり多くなった。

(4) 4月の気象概況

4月上旬：寒冷前線の通過で雨となる日もあったが、高気圧に覆われて晴れの日が多い。多照。

2日に福岡でソメイヨシノの満開。

1日に飯塚で「日最小相対湿度」の4月の極値を更新。

期間を通して高気圧の影響を受けやすく晴れの日が多くなったが、8日は寒冷前線が通過したため、ややまとまった雨となり、県内各地で10.5～30.5mmの日降水量を観測した。

また、2日に福岡でソメイヨシノの満開（平年より1日早く、昨年より8日遅い）を観測した。1日には飯塚で日最小相対湿度7%を観測し4月の極値を更新した。

気温は、期間の前半は平年より概ね低く経過し、後半は概ね高く経過した。旬では県内各地で概ね平年並となった。降水量は県内各地で平年を下回り、日照時間は県内各地で平年を上回った。県内各地の旬平均気温は11.6～13.6℃（平年差-0.1～0.7℃）で概ね平年並となった。旬降水量は10.5～31.0mm（平年比25～49%）で少なくなり、旬日照時間は平年比132～143%で概ねかなり多くなった。

4月中旬：期間の初めと終わりは気圧の谷の影響で雨の降る日があったが、高気圧に覆われて晴れの日が多かった。

11日は、前線の通過で弱い雨が降った。12日から18日にかけては気圧の谷の通過で曇る日もあったが概ね晴れた。19日は寒気を伴う気圧の谷の通過で、一時雨が降り福岡ではひょうを観測した。

気温は、期間の半ばに平年を上回る日もあったが、その他は低く経過し、旬では県内各地で平年を下回った。降水量は県内各地で平年を下回り、日照時間は県内各地で平年を上回った。県内各地の旬平均気温は11.9～13.8℃（平年差-1.5～-0.7℃）で概ね低くなった。旬降水量は0.0～14.5mm（平年比0～25%）で概ね少なくなり、旬日照時間は平年比110～122%で概ね多くなった。

4月下旬：天気は数日の周期で変化したが、県北部の天気の崩れは小さかった。

28日に少雨に関する福岡県気象情報第1号を発表。

天気は数日の周期で変化したが、22～23日は前線を伴った低圧が通過し22日は県内で1.5～28.0mm、23日は1.0～29.0mmの日降水量を観測し、筑後地方を中心に30mm前後のまとまった雨となった他、前線や気圧の谷の影響で24日、27日、30日に雨を観測した。

福岡県では3月1日頃から雨の少ない状態が続き、28日に「少雨に関する福岡県気象情報第1号」を発表した。降水量は県の南部を除いて少く、気温と日照時間は概ね平年並だった。県内各地の旬平均気温は13.9～16.7℃（平年差-1.7～0.7℃）で概ね平年並となった。旬降水量は11.5～65.0mm（平年比31～152%）と地域による差が大きく、かなり少ない～多いとなった、旬日照時間は平年比91～112%で概ね平年並となった。

(5) 5月の気象概況

5月上旬：天気は数日の周期で変化した。期間の終わりは前線の影響を受けてまとまった雨となった。

7日15時にフィリピンの東海上で台風第1号が発生。

10日に宗像、八幡で「5月の日降水量の多い方から」の記録を更新。

天気は数日の周期で変化した。9日は高気圧に覆われて福岡市で真夏日(30.2℃)を観測した。10日は朝鮮半島に前線が停滞し、南から暖かく湿った空気が流入したため、県内全域でまとまった雨となり、宗像で142.5mm、八幡で141.0mmの日降水量を観測し「5月の日降水量の多い方から」の記録を更新した。

気温は、期間の前半は平年を下回る日が多かったが、後半は上回る日が多く、旬では県内各地で平年を上回った。降水量は県内各地で概ね平年を上回り、日照時間は県内各地で平年を下回った。県内各地の旬平均気温は17.3～19.7℃(平年差0.5～1.4℃)で高く、旬降水量は57.0～176.5mm(平年比82～307%)で概ね多くなり、旬日照時間は平年比64～91%で概ね少なくなった。

5月中旬：天気は高気圧に覆われて晴れる日が多かった。期間の初めは前線の影響を受けてまとまった雨となった。

17日午後には上空の寒気の影響で、筑後地方で降ひょう。

期間中は高気圧に覆われて晴れる日が多かったが、11日は、前線や暖かく湿った空気の流れ込みで、筑後地方を除いて大雨となった。台風第1号は12日03時、種子島の南海上で熱帯低気圧となった。17日は上空の寒気の影響で、筑後地方でひょうが降ったところがあった。

気温は、平年を下回る日もあったが、旬では県内各地で平年を上回った。降水量は平年を下回るところが多く、日照時間は県内各地で平年を上回った。県内各地の旬平均気温は18.5～20.8℃(平年差0.4～1.9℃)で高く、旬降水量は27.5～145.5mm(平年比37～181%)で概ね平年並となり、旬日照時間は平年比123～139%で多くなった。

5月下旬：天気は前線や低気圧、台風第2号の影響で曇りや雨の日が多かった。

頂吉、八幡、宗像で「月降水量の多い方から」の5月の極値を更新した。

九州北部地方(山口県を含む)は21日ごろ梅雨入り。

期間中は前線や低気圧の影響で曇りや雨の日が多かった。このため、福岡管区気象台は「九州北部地方(山口県を含む)は21日ごろ梅雨入りしたとみられる」と発表した(平年は6月5日ごろ、昨年は6月12日ごろ)。29日は台風第2号が種子島付近を北東に進んだ。このため福岡県では北寄りの風が強く、30mm前後のややまとまった雨が降った。また、頂吉で524.0mm、八幡で331.5mm、宗像で313.5mmの月降水量を記録し5月の「月降水量の多い方から」の極値を更新した。

気温は、期間のはじめに平年を上回る日もあったが、旬では県内各地で平年を下回った。降水量は県内各地で平年を上回り、日照時間は県内各地で平年を下回った。県内各地の旬平均気温は17.6～19.5℃(平年差-0.8～-1.8℃)で低く、旬降水量は117.5～249.0mm(平年比255～426%)でかなり多くなり、旬日照時間は平年比23～36%でかなり少なくなった。

(6) 6月の気象概況

6月上旬：前線や低気圧、気圧の谷の影響で曇りや雨の日が多く、期間の終わりにまとまった雨が降った。

9日03時ルソン島の西海上で台風第3号が発生。

前線や低気圧、気圧の谷の影響で曇りや雨の日が多かった。期間の終わりは梅雨前線の影響で、県内各地で50ミリ前後のまとまった雨となった。

気温は平年を下回る日もあったが旬では概ね平年を上回った。降水量は県内各地で概ね平年を上回り、日照時間は県内各地で平年を下回った。県内各地の旬平均気温は20.3～22.6℃（平年差-0.4～0.8℃）で概ね平年並、旬降水量は46.0～91.0mm（平年比80～152%）で概ね多くなり、旬日照時間は平年比60～85%で少なくなった。

6月中旬：梅雨前線や低気圧の影響で曇りや雨の日が多く、県の南部ほど降水量が多くなった。多雨。寡照。

期間を通して梅雨前線や低気圧の影響で曇りや雨の日が多かった。11～12日と16日は九州付近に停滞する梅雨前線や低気圧の影響により県内各地で大雨となった。特に12日は筑後地方を中心に日降水量100ミリを超える大雨、16日は県内各地で日降水量70ミリ前後の大雨となった。また、19日と20日は九州中部から南部に梅雨前線が停滞し、筑後地方で大雨となったところがあった。

気温は、期間を通して県内各地で概ね平年を下回った。降水量は県内各地で平年を上回り、日照時間は県内各地で平年を下回った。

県内各地の旬平均気温は20.4～21.6℃（平年差-2.1～-1.0℃）で低くなり、旬降水量は169.0～536.5mm（平年比238～521%）でかなり多く、旬日照時間は平年比6～18%でかなり少なくなった。

6月下旬：太平洋高気圧に覆われて晴れる日が多く、中頃に台風第5号の影響で雨。高温。

24日に行橋で「日最高気温の高い方から」の、太宰府で「最低気温の高い方から」の6月の記録を更新。大牟田と耳納山で「月降水量の多い方から」の6月の記録を更新。

この期間は、太平洋高気圧に覆われて晴れる日が多かった。25～27日は東シナ海を北上した台風第5号の影響でまとまった雨となった。24日に行橋で35.3℃の日最高気温を観測し「日最高気温の高い方から」の6月の記録を更新、太宰府で26.5℃の日最低気温を観測し「日最低気温の高い方から」の6月の記録を更新した。また、大牟田で762.0mm、耳納山で707.0mmの月降水量を記録し「月降水量の多い方から」の6月の記録を更新した。

気温は、期間を通して県内各地で平年を上回った。降水量は県内各地で概ね平年を下回り、日照時間は県内各地で平年を上回った。

県内各地の旬平均気温は24.2～28.1℃（平年差+2.5～+4.3℃）でかなり高くなり、旬降水量は55.0～189.0mm（平年比34～108%）で平年並のところが多く、旬日照時間は平年比122～158%で多くなった。

(7) 7月の気象概況

7月上旬：梅雨前線や湿った気流の影響を受ける日が多く、期間の終わりは太平洋高気圧に覆われ晴れた。

九州北部地方（山口県を含む）では、8日ごろ梅雨明け。9日にアブラゼミ初鳴。

この期間は、梅雨前線や湿った気流の影響を受ける日が多く、曇りや雨の日が多かった。6日は、梅雨前線の北上に伴い県内全域で大雨となり、大牟田では日降水量162.0 mmを観測した。期間の終わりは太平洋高気圧に覆われ、晴れて気温が高くなった。このため、福岡管区気象台は「九州北部地方（山口県を含む）は、8日ごろに梅雨明けしたと見られる」と発表した。（平年は7月19日ごろ、昨年7月17日ごろ）また、9日にはアブラゼミの初鳴（平年より1日遅く、昨年より8日遅い）を観測した。

気温は、期間の中頃に平年を下回る日があったが、平年を上回る日が多く旬では県内各地で平年を上回った。降水量は平年を上回ったところが多く、日照時間は県内各地で概ね平年を下回った。

県内各地の旬平均気温は25.6～28.0℃（平年差0.8～2.5℃）で高く、旬降水量は114.5～265.5mm（平年比81～173%）で平年並か多くなり、旬日照時間は平年比67～103%で平年並になった。

7月中旬：太平洋高気圧に覆われて晴れる日が多く、期間のはじめは上空の寒気や強い日射の影響で午後雷を伴った雨、終わりは台風第6号の影響を受け曇りや雨の日があった。

期間の中頃までは、太平洋高気圧に覆われて晴れた。期間のはじめは上空の寒気や強い日射の影響で、夕方から雷を伴う雨となる日があった。期間の終わりは大型の台風第6号の影響で曇りや雨となった。

気温は、期間の終わりに平年を下回る日があったが、県内各地で概ね平年を上回った。降水量は県内各地で平年を下回り、日照時間は県内各地で平年を上回った。

県内各地の旬平均気温は25.6～28.5℃（平年差-0.3～1.6℃）で概ね高く、旬降水量は0.5～126.5mm（平年比0～90%）で少ないところが多くなり、旬日照時間は平年比111～143%で多くなった。

7月下旬：太平洋高気圧に覆われて晴れたが、湿った空気の流れ込みや上空の寒気の影響で曇りや雨となる日があった。

24日に福岡で7月の「日最小相対湿度」の極値を更新した。

期間のはじめは北からの湿った空気の流れ込みで曇りや雨となった。期間の中頃からは、太平洋高気圧に覆われて晴れたが、湿った空気の流れ込みや上空の寒気の影響で曇りや雨となる日があった。24日に福岡で19%の日最小相対湿度を観測し、7月の「日最小相対湿度」の極値を更新した。

気温は、期間のはじめ平年を大きく下回り、後半は平年を上回った。旬では県内各地で平年を下回った。降水量は県内各地で平年を下回り、日照時間は県内各地で概ね平年を上回った。

県内各地の旬平均気温は25.5～27.7℃（平年差-1.3～-0.4℃）で概ね低く、旬降水量は0.5～50.0mm（平年比1～55%）で概ね少なく、旬日照時間は平年比87～112%で平年並となった。

(8) 8月の気象概況

8月上旬：太平洋高気圧周辺部の湿った空気の流れ込みや台風第9号からの湿った空気の影響で曇りや雨となる日が多かった。

7日にヒグラシの初鳴、9日にサルスベリの開花。

期間のはじめは、太平洋高気圧周辺部の湿った空気の流れ込みで曇りや雨で雷雨となる日もあった。中頃からは太平洋高気圧周辺部の湿った空気の流れ込みや東シナ海を北上した台風第9号からの湿った空気の影響で曇りや雨となる日が多かった。

また、7日にはヒグラシの初鳴(平年より30日遅く、昨年より26日遅い)、9日にはサルスベリの開花(平年より13日遅く、昨年より10日早い)を観測した。

気温は、期間のはじめと中頃は下回るところもあったが、その他は概ね平年を上回り、旬では県内各地で平年を上回った。降水量と日照時間は県内各地で平年を下回った。

県内各地の旬平均気温は 27.3～29.8℃ (平年差+0.4～+1.9℃) で概ね高く、旬降水量は 1.0～33.0mm (平年比2～67%) で概ね少なく、旬日照時間は平年比 67～88%で概ね少なくなった。

8月中旬：はじめは太平洋高気圧に覆われて晴れた。中頃からは太平洋高気圧周辺部の湿った空気の影響で曇りや雨となる日が多く、終わりは前線の影響で雨となった。

期間のはじめは太平洋高気圧に覆われて晴れた。期間の中頃からは、太平洋高気圧周辺部の湿った空気の流れ込みで、曇りや雨となる日が多かった。終わりは前線の影響で曇りや雨となり、20日は県内で日降水量1.0mm～67.0mmの雨となった。

気温は、期間の中頃と終わりに平年を下回る日があったがその他の日は平年を上回り、旬では県内各地で平年を上回る所が多かった。降水量は県内各地で平年を上回る所が多くなり、日照時間は県内各地で概ね平年を下回った。

県内各地の旬平均気温は26.1～28.8℃ (平年差-0.7～+1.0℃) で概ね平年並、旬降水量は21.5～150.5mm (平年比37～245%) で概ね多く、旬日照時間は平年比60～100%で概ね少なくなった。

8月下旬：中頃までは九州付近に停滞する前線や気圧の谷の影響で曇りや雨となり、雷を伴って強く降る日があった。終わりは高気圧に覆われて晴れた。多雨。

期間の中頃までは、九州付近に停滞する前線や気圧の谷の影響で曇りや雨となり、雷を伴って強く降る日があった。特に23日は対馬海峡に停滞する前線上に低気圧が発生し、前線の活動が非常に活発となり、県内各地で30.0mm～124.0mmの大雨となった。期間の終わりは高気圧に覆われて晴れて気温が上がり、27日からは県内全域で真夏日となり、猛暑日となる所もあった。

気温は、期間の中頃までは平年を下回る日が多く、終わりは平年を上回る日が多かったが、旬では県内各地で概ね平年を下回った。降水量は県内各地で平年を上回り、日照時間は平年を上回る所が多かった。

県内各地の旬平均気温は25.3～27.4℃ (平年差-0.5～+0.3℃) で概ね平年並、旬降水量は132.5～271.0mm (平年比156～421%) でかなり多く、旬日照時間は平年比85～111%で平年並となった。

(9) 9月の気象概況

9月上旬：期間のはじめは台風第12号の影響を受けて曇りや雨、中頃は大陸の高気圧に覆われて晴れたが終わりは台風第14号の影響で曇りや雨。

8月25日09時にマリアナ諸島の西海上で発生した台風第12号は、発達しながらゆっくり北上し、9月2日には暴風域を伴ったまま四国地方に接近、3日10時前に高知県東部に上陸した。その後も台風はゆっくりと北上し、四国・中国地方を縦断し、4日未明に日本海に進み、5日15時には温帯低気圧となった。台風第12号は大型で動きが遅く、台風周辺の非常に湿った空気が長時間流れ込んだため、西日本から北日本にかけての広い範囲で記録的な大雨となった。福岡県も期間の前半は台風第12号の影響で曇りや雨となった。期間の中頃は大陸の東部に中心を持つ高気圧に覆われて晴れた。期間の終わりは、7日12時に日本の南海上で発生した台風第14号が九州の南西海上を北西に進んだ影響で曇りや雨となった。

気温は、期間のはじめと終わりは平年を上回り、中頃は下回ったが、旬では平年を上回る場所が多かった。降水量、日照時間は、ともに平年を下回る場所が多かった。

県内各地の旬平均気温は24.3～26.4℃（平年差-0.6～+0.6℃）で概ね平年並、旬降水量は1.0～139.5mm（平年比1～131%）で概ね少なく、旬日照時間は平年比89～105%で概ね平年並となった。

9月中旬：期間の前半は高気圧に覆われて晴れた。期間の後半は台風第15号や前線の影響で曇りや雨。高温。12日に福岡でヤマハギの開花。

期間の前半は高気圧に覆われて晴れた。期間の後半は台風第15号からの湿った空気の流入や前線の影響で曇りや雨となった。特に、20日は強い台風第15号が九州の南西海上を北東進したため、北寄りの風がやや強く吹いた。

また、12日にはヤマハギの開花（平年より18日遅く、昨年より2日早い）を観測した。

気温は期間の終わりに低くなったほかは、かなり高く経過し、旬では平年を上回った。降水量は、平年を上回る場所が多く、日照時間は、概ね平年を上回った。

県内各地の旬平均気温は24.4～26.9℃（平年差+1.2～+2.7℃）でかなり高く、旬降水量は33.0～154.0mm（平年比72～230%）で概ね多く、旬日照時間は平年比90～112%で平年並となった。

9月下旬：期間の前半は、台風の影響で雨の降る日があったが、高気圧に覆われ晴れの日が多かった。期間の後半は、気圧の谷や前線の影響で、曇りや雨の天気となった。

27日に福岡でススキの開花。

期間の前半は、はじめ台風第15号からの湿った空気の影響で雨の降る日があったが、その後は高気圧に覆われ晴れた。期間の後半は、高気圧が東に進み、気圧の谷や前線の影響で曇りや雨の天気となった。

また、27日には福岡でススキの開花（平年より4日遅く、昨年より7日早い）を観測した。

気温は、期間の前半に平年をかなり下回る日があり、後半は平年を上回る日が多かったが、旬では県内各地で平年を下回った。降水量は県内各地で平年を下回り、日照時間は県内各地で概ね平年を上回った。

県内各地の旬平均気温は19.7～22.4℃（平年差-1.4～-0.1℃）で概ね低く、旬降水量は2.5～64.5mm（平年比13～84%）で概ね少なく、旬日照時間は平年比99～122%で概ね多くなった。

(10) 10月の気象概況

10月上旬：高気圧に覆われて晴れる日が多かったが、期間の中頃に低気圧の影響で雨となる日があった。

9日にモズ初鳴。

期間の前半は気圧の谷の影響で雲の多い天気となり、5日は前線を伴った低気圧が九州の南海上を東北東進し、県内で0.0～21.0mmの雨となった。期間の後半は高気圧に覆われて概ね晴れた。9日には福岡でモズの初鳴(平年より24日遅く、昨年より26日遅い)を観測した。

気温は、期間の終わりに平年を上回ったがその他は概ね平年を下回り、旬では県内各地で平年を下回った。降水量は県内各地で平年を下回り、日照時間は平年を上回る所が多かった。

県内各地の旬平均気温は17.5～20.5℃(平年差-1.9～-0.4℃)で概ね低く、旬降水量は0.5～21.0mm(平年比1～53%)で概ね少なく、旬日照時間は平年比82～119%で概ね平年並となった。

10月中旬：高気圧に覆われて晴れる日が多かったが、期間の中頃に低気圧の通過でまとまった雨となる日があった。

添田、朝倉、英彦山、久留米で、「日最大1時間降水量」の10月の極値を更新。

期間のはじめは高気圧に覆われて概ね晴れた。14日は前線を伴った低気圧が東シナ海から九州北部付近を東北東に進んだため県内各地で27.0～118.5mmのまとまった雨となり、添田、朝倉、英彦山、久留米で「日最大1時間降水量」の10月の極値を更新した。期間の後半は気圧の谷の影響を受ける日もあったが高気圧に覆われて概ね晴れた。

気温は、期間の前半は平年を上回り、後半は平年を下回る日もあったが、旬では県内各地で平年を上回った。降水量は県内各地で平年を上回り、日照時間は県内各地で平年を下回った。

県内各地の旬平均気温は17.8～20.6℃(平年差+0.4～+1.5℃)で高く、旬降水量は27.0～121.0mm(平年比118～524%)で多く、旬日照時間は平年比76～96%で概ね少なくなった。

10月下旬：低気圧や気圧の谷の影響で曇りや雨の日が多かったが、期間の中頃は高気圧に覆われて晴れた。

期間のはじめと期間の後半は低気圧や気圧の谷の影響で曇りや雨となった。21日と30日は低気圧の通過でまとまった雨が降り、21日は雷を伴って強く降った所があった。期間の中頃と終わりは高気圧に覆われて晴れ、27日は山沿いや内陸部を中心に放射冷却で冷えた。

気温は、期間の中頃平年を下回る日があったがその他は概ね平年を上回り、旬では県内各地で平年を上回った。降水量は県内各地で平年をかなり上回り、日照時間は県内各地で平年を下回った。

県内各地の旬平均気温は15.8～18.3℃(平年差+0.3～+1.7℃)で高くなった。旬降水量は55.0～121.0mm(平年比322～576%)でかなり多く、旬日照時間は平年比59～74%で少なくなった。

(11) 11月の気象概況

11月上旬：気圧の谷や低気圧の影響で曇りや雨の日が多かった。高温。寡照。

1日に朝倉、久留米で、3日に太宰府、大牟田で「日最高気温の高い方から」の極値を更新。

5日に福岡、宗像、八幡、行橋、前原、太宰府、添田、久留米で「日最低気温の高い方から」の極値を更新

高気圧に覆われて晴れる日もあったが、気圧の谷や低気圧の影響で曇りや雨の日が多かった。低気圧が対馬海峡を東進した5日～6日は県内全域で雨となり、県内各地で19.0～52.5mmのまとまった雨となった。1日に朝倉で26.4℃、久留米で27.1℃、3日に太宰府で26.6℃、大牟田で26.2℃の日最高気温を記録し11月の「日最高気温の高い方から」の極値を更新した。また、5日に福岡で20.3℃、宗像で19.5℃、八幡で19.6℃、行橋で19.1℃、前原で20.0℃、太宰府で19.7℃、添田で17.8℃、久留米で19.6℃の日最低気温を記録し11月の「日最低気温の高い方から」の極値を更新した。

気温は、期間を通して平年を上回り、旬では県内各地で平年を上回った。降水量は平年を上回った所が多く、日照時間は県内各地で平年を下回った。

県内各地の旬平均気温は16.9～19.8℃(平年差2.8～4.6℃)でかなり高く、旬降水量は20.0～52.5mm(平年比61～183%)で平年並の所が多く、旬日照時間は平年比37～56%でかなり少なくなった。

11月中旬：期間の中頃に高気圧に覆われて晴れる日もあったが、気圧の谷や低気圧の影響で曇りや雨の日が多かった。高温。多雨。

18日に頂吉、太宰府、耳納山で「日降水量」の11月の極値を更新。

19日に福岡、添田、英彦山、耳納山で「日最大1時間降水量」の11月の極値を更新。

14日にイチョウの黄葉。

期間の中頃に高気圧に覆われて晴れる日もあったが、気圧の谷や低気圧の影響で曇りや雨の日が多かった。前線を伴った低気圧が九州北部に接近、通過した18～19日は県内全域で大雨となり、18日は頂吉で74.0mm、太宰府で71.5mm、耳納山で78.0mmの「日降水量」を記録し、11月の極値を更新した。19日は福岡で26.0mm、添田で24.5mm、英彦山で28.0mm、耳納山で26.5mmの「日最大1時間降水量」を記録し、11月の極値を更新した。

14日には、平年より2日遅く、昨年より2日遅いイチョウの黄葉を観測した。

気温は、期間の中頃に平年を下回る日があったが、その他は平年を上回り、旬では県内各地で平年を上回った。降水量は県内各地で平年を上回り、日照時間は県内各地で概ね平年を下回った。

県内各地の旬平均気温は13.6～16.0℃(平年差+2.0～+2.7℃)で概ねかなり高く、旬降水量は83.0～166.5mm(平年比268～717%)でかなり多く、旬日照時間は平年比88～106%で概ね平年並となった。

11月下旬：気圧の谷や前線の影響で曇りや雨の日もあったが高気圧に覆われて晴れる日が多かった。福岡、八幡、行橋、前原、太宰府、久留米で「月平均気温の高い方から」の極値を更新。

気圧の谷や前線の影響で曇りや雨の日もあったが、高気圧に覆われて晴れる日が多かった。23日は気圧の谷や前線の影響で、県内で2.5～11.5mmの雨が降った。11月は、南からの暖湿気流の影響を受ける日が多く、月平均気温は福岡で16.3℃、八幡で15.4℃、行橋で14.3℃、前原で15.4℃、太宰府で15.2℃、久留米で15.5℃を記録し「月平均気温の高い方から」の11月の極値を更新した。

気温は、期間の前半は平年を下回る日が多かったが、後半は平年を上回り、旬では県内各地で平年を上回った。降水量は県内各地で平年を下回り、日照時間は県内各地で平年を上回った。

県内各地の旬平均気温は10.1～13.0℃(平年差0.5～1.4℃)で概ね高く、旬降水量は2.5～15.5mm(平年比9～55%)で少ないところが多くなり、旬日照時間は平年比106～127%で概ね多くなった。

(12) 12月の気象概況

12月上旬：期間の中頃は晴れの日があったが低気圧や寒気の影響で曇りや雨の日が多かった。

寡照。

福岡では1日にイチョウの落葉、10日にカエデの紅葉を観測。

期間の中頃は、大陸から移動する高気圧に覆われて晴れの日があったが、低気圧や寒気の影響を受け曇りや雨の日が多かった。

福岡では、1日に、平年より3日遅く、昨年より2日遅いイチョウの落葉を、10日には、平年より15日遅く、昨年より7日遅いカエデの紅葉を観測した。

気温は、期間の終わりに寒気の影響をうけ平年を下回ったが、旬では県内各地で平年を上回った。降水量は県内各地で概ね平年を上回り、日照時間は県内各地で平年を下回った。

県内各地の旬平均気温は8.7～11.3℃(平年差+1.0～+1.8℃)で高くなり、旬降水量は25.0～83.5mm(平年比82～241%)で多い所が多く、旬日照時間は平年比50～66%でかなり少ない所が多くなった。

12月中旬：期間を通して天気は数日の周期で変化した。期間の中頃に強い寒気の影響でみぞれ。

少雨。

福岡では16日に初雪、17日に初冠雪、20日に初霜と初氷を観測。

期間を通して天気は数日の周期で変化した。期間の中頃に強い寒気の流入でみぞれを観測した。

福岡では16日に平年より1日遅く、昨年と同じ初雪、17日に平年より9日遅く、昨年より8日遅い初冠雪(脊振山)、20日には平年より8日遅く、昨年より21日遅い初霜と平年より4日遅く、昨年より10日遅い初氷を観測した。

気温は、期間の前半に平年を上回る日もあったが、その他は平年を下回り、旬では県内各地で平年を下回った。降水量は県内各地で平年を下回り、日照時間は平年を下回った所が多くなった。

県内各地の旬平均気温は5.0～8.3℃(平年差-1.1～-0.2℃)で平年並の所が多く、旬降水量は0.0～3.5mm(平年比0～13%)で概ねかなり少なく、旬日照時間は平年比82～114%で概ね平年並となった。

12月下旬：期間の前半は冬型の気圧配置が続き曇りで雨やみぞれまたは雪となった。後半は高気圧に覆われて概ね晴れた。少雨。

福岡では29日にカエデの落葉を観測。

期間の前半は、22日に気圧の谷が通過した後、冬型の気圧配置が強まり、曇りで一時雨やみぞれまたは雪を伴う天気となった。後半は高気圧に覆われて概ね晴れた。福岡では29日に平年より18日遅く、昨年より20日遅いカエデの落葉を観測した。

気温は、期間のはじめ平年を上回る日もあったが概ね平年を下回り、旬では県内各地で平年を下回った。降水量は県内各地で平年を下回り、日照時間は平年を上回るところが多かった。

県内各地の旬平均気温は2.9～6.3℃(平年差-2.8～-1.5℃)で低くなり、旬降水量は0.0～5.0mm(平年比0～23%)でかなり少ない所が多く、旬日照時間は平年比87～120%で概ね平年並となった。

(13) 月別値の階級区分

福岡の月別値の階級区分

年 月	月平均気温	月降水量	月日照時間
平成23年 1月	かなり低い	かなり多い	少ない
平成23年 2月	高い	少ない	平年並
平成23年 3月	かなり低い	かなり少ない	かなり多い
平成23年 4月	平年並	かなり少ない	かなり多い
平成23年 5月	高い	かなり多い	少ない
平成23年 6月	高い	多い	少ない
平成23年 7月	高い	平年並	多い
平成23年 8月	平年並	多い	少ない
平成23年 9月	高い	少ない	多い
平成23年 10月	平年並	多い	少ない
平成23年 11月	かなり高い	かなり多い	少ない
平成23年 12月	低い	少ない	少ない

階級区分について

気象要素の分布を値の大(高)、小(低)によって、「高い(多い)」、「平年並」、「低い(少ない)」の3階級を用い、平年から極端に異なった状況を表現する場合には、「かなり高い(多い)」、「かなり低い(少ない)」を補足的に用いています。3階級の出現率は「33.3%、33.3%、33.3%」(1:1:1)の等確率で、「かなり高い(多い)」、「かなり低い(少ない)」の出現率は10%です。